

## ■ 第6講

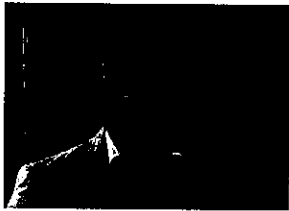
総合テーマ：『人材育成の手法としてのゲームの活用』

日時：2019年10月4日（金）

会場：昭和ビル 9階ホール

■講師：田口 太郎 氏（徳島大学総合科学学部 准教授）

■テーマ：『人材育成の手法としてのゲームの活用』



高齢化、人口減少等が進む中で、縮小社会を前提とした地域戦略、地域の“身の丈”にあった“攻め”と“守り”のバランスがとれた地域づくりが求められています。

地域づくりは考えれば考えるほど難しく、情報交換のコミュニケーション・ツールとして地域づくりコーディネート・ゲームを考えました。各地のリアルな実態に合わせるのではなく、仮想集落を設定、同じ条件

下でグループが共同して地域づくりのプロセス・デザインを行うことで、楽しみながらより汎用性の高い地域づくり人材を育成することができます。

ゲームのカードは、集落カード、課題カード、資源カード、内部人材カード、地元リーダーのひとり言カード、外部人材カードで構成され、無作為に引いたカードから、地域づくりのステージごとに、地域を主役において身の丈にあった視点から様々な資源や人材をつなげ、ロードマップで活動全体をイメージすることで、地域づくりの企画に必要なコーディネートを模擬的に体験することができます。

■講師：上原 一紀 氏（まちげー 代表、Urbo（まちげー学会）共同代表）

■テーマ：『「まちげー」を活用した取り組み事例～まちづくり×ゲーム×人材育成の可能性～』



まちづくりにおいて、アナログゲーム（まちげー）というツールを使うことで、年代、所属、立場を越えて楽しく、自分ゴトとして、社会を考えることができます。まちげーは、まちなか発想ゲーム「メイキット」、Turn the Town、鳥獣対策ボードゲームなどを始め、数多く作成されています。まちげーは、①同じ立場になる必要がある、②能動性を引き出し自分ゴトにする、③面白さ・ワクワク感を高め参加者の熱量を高める、

など従来のワークショップ方式を超える可能性があります。さらにゲームを楽しんでお終いではなく、振り返りにおいて言語化し、無関心→関心→行動へと結びつけることが必要です。

行政においても、SIM2030は各地の自治体の職員研修で取り入れられているほか、山形県酒田市では総合計画策定に行政職員と市民が同じ立ち位置で参加すべくSIM2030が採用されています。